

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000838		
法人名	有限会社 優春		
事業所名	グループホーム くれよん		
所在地	小樽市長橋5丁目13番4号		
自己評価作成日	平成22年11月8日	評価結果市町村受理日	平成23年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者1人1人の合わせた個性あるケアに取り組んでいます。日々の暮らしの中で生活しながらリハビリすることに力をいれ、思いやり・寄り添う気持ちを大切にし、1つの家族のように、地域に密着した明るく楽しいホームを目指し、職員1丸となって日々のケアに取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000838&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年12月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、法人代表者の出身地である小樽市長橋で「地域に貢献できる事業を行いたい」という思いで開設され、近隣には同法人のグループホームと小規模多機能事業所があります。3つの事業所は、互いに連携しながら地域に溶け込み、利用者の生活を支えています。ホームでは利用者の外出支援に力を入れており、カラオケに出かけたり、夏祭り、運動会、花見と、みんなで楽しめる行事の他に「ふるさとめぐり」と題して、利用者一人ひとりの思い出の地を、個別に訪問する取り組みなどを行っています。また、職員は利用者が明るく楽しい毎日を送るために、様々な催しものを企画し共に楽しんでいます。その様子はカラフルな「くれよんだより」に記載され、家族に送付されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の暮らしの中で絶えず理念を忘れない対応をしている。ちょっとした言葉かけ、態度にも職員同士注意しあい思いやりあるケアの実践に日々取り組んでいる	新人職員には、まず理念の説明を行い、全職員の視点を合わせてケアが行えるようにしています。毎月のミーティングの際も理念を振り返るようにしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の老人クラブに参加したり、会館の清掃・公園の清掃・町内のゴミ拾いなど地域の活動に入居者さんも参加し、夏祭り・文化祭などでも交流を深め、コミュニケーションをとっている。	法人代表が同地区に居住しており、町内会に加入しています。地域の行事には利用者も参加するようにしています。散歩の際の挨拶やホーム裏のアパートへの災害協力要請など、継続的に行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などでホームの現状や、認知症の方々の思いなどをお話させていただき、講習会などを開いて共に理解しながら協力しあっている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現況・入居者さんの状況・行事への取り組み、反省点など参加者の方々と意見を交わし、取り組みへのヒントにし、日々のサービスへ生かしている。	ホームでは、運営が閉塞的にならないよう、広く意見を求める姿勢で、運営推進会議を開催しています。会議の内容を家族に知らせています。	次回から、地域包括支援センターの参加を予定しています。また限られた家族以外や職員の参加を検討するなど、ホームが期待する様々な立場からの意見を受けられるよう、検討することを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡協議会を通じ、市町村担当者と話す機会を設けるなど以前より連携があるがまだまだ関係作りが足りないと感じている。	市の介護保険課や消防署等、ホームの運営の際の相談や施設の検査やアドバイスを受けています。消防署の訪問の際などの助言は、早急に改善に結び付けています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し職員全員で日々のなかで身体拘束につながりそうなことがないかよく話し合い、意識を高め拘束のないケアを実践している。自分たちだけでは気づかないことがあるので、系列ホームの管理者にアドバイスをもらい振り返りをしている	職員の全体ミーティングなどで実際の事例を活用しながら、リスクについて話し合い、どんなことが身体拘束に当たるのかを検討しています。見守りや言葉かけ、気配りについて、職員が統一した対応ができるようにしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、勉強会やミーティングで理解してもらうよう取り組んでいる。学んだ事は職員間で情報共有し虐待や身体拘束をしない隠さないケアにとりくんでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況			実施状況		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する研修に参加し、内容を職員にわかりやすく説明し、理解を深めてもらうようにしている。以前に後見人制度を利用していた方がいたので、わかりやすく身近に支援している。					
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、料金・おこりうるリスク・事故について丁寧にわかりやすく説明している。家族にとってわかりにくい部分もあるためわかりやすく納得いくまで説明するようにしている。					
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満や苦情は個別に聞き、出た意見はすぐに職員間で話し合い利用者さん本意の運営を心がけている。家族からの意見もミーティング・申し送り等でよく話し合い運営に反映させている	利用者の言葉や意向を尊重して、聞き逃さないようにしています。また、ホームでは、家族の意見を大切にしたいという思いから、家族会の設置の検討を行っています。				
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングなどで職員の意見・提案などを聞き仕事に反映している。食事会などでも要望や意見を聞き、ストレスがたまらないようにコミュニケーションを摂っている。	管理者は、職員と気楽に話ができるように食事会を企画するなど、様々な場面で意向が表出できるように配慮しています。勤務時間や職員の家族状況にも配慮しています。				
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状態をよく把握し、勤務時間や条件の整備など柔軟に対応している。各自がやりがいを持って仕事ができるよう良い職場作りに努めている。					
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修をはじめ、定期的に外部研修にも積極的に参加し、各自のケアに対する質の向上につとめている。働きながらでもどんどん勉強する機会を進めている。					
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上をさせていく取り組みとして、他ホームとの相互訪問実務研修に参加し6月より職員が1人ずつ参加している。研修記録にて内容を共有し、役立つ事は自分のホームで実践している。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人・家族からよく話を聞き、何を思い何がその人にとって良いか求めている事を理解できるように努めている。入居前に何度かホームを見学してもらいよい関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の状況をよく話し合い今何が困っているか、今までのサービス状況も踏まえてゆっくり話を聞き、その上でどうゆうサービスができるかを細かい所までよく話し合い受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、現在の状況・必要としている支援をよく話し合い、入居が必要と判断した入居者さんに対し事前に見学、昼食に参加してもらうなどして、サービスの利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な関係をモットーに互いに支えあう関係作りに努めている。尊敬する気持ち・感謝する気持ちを忘れずに活動的に生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族・本人の気持ちを支えながらより良い関係作りのため、日頃の状況をこまめに報告・相談している。気軽に訪問していただいたりホームの行事への積極的参加をお願いするなど、一緒に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から行っていた美容室に行ったり、月命日にお参りに行くなど、その方その方の生活習慣を大切にしている。思い出の場所・行きたい所など聞き、行事などにも取り込んで支援に努めている。	寺へのお参りや近所の知人宅への外出支援など、個別に対応しています。利用者の気持ちや希望を引き出し、家族とも連携しながら、利用者の懐かしい場所へ出掛ける取り組みに力を入れています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように職員が架け橋となり、楽しく調理や掃除しながら、共有の時間を過ごせる様配慮している。利用者同士の関係がうまくいくように、職員が会話を多く持ちようにしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も夏祭りへのお誘いや、くれよん通信を送ったりして関係が断ち切れないように努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人がどのように暮して生きたいか本人の気持ちに近づけるよう努力している把握が困難な場合も家族関係者と話しなるべく本人の気持ちに添えよう検討する	職員は、3ヵ月毎に実施するアセスメントや日々の気付きを申し送りノート等に記載しながら、利用者の思いを共有しています。困難な場合には、24時間のアセスメントをし、利用者本位に検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族からこれまでの生活歴などを聞き暮らしのシートに残し、職員全員で共有し、ご本人が安心して暮せるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者1人1人ができることをより伸ばせるよう行動や小さな動作からも感じ取り現在の体や心の状態を把握できるようによく観察している			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が其の日とらしく暮して行けるよう朝の申し送りなどでもカンファレンスを含めよく話し合い課題となる事は素早くプランに反映させ、ケアマネ・職員・家族と協力して介護計画を作成している	計画作成者がアセスメントを行い、それをもとに職員からの意見を集約しています。高齢化のため、体力面や健康面に配慮しながら、一人ひとりが明るく毎日を過ごせるように支援しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を記入し、日常の職員の気づきや状態の変化まで毎日申し送りで話し合い、常に情報を共有しながらケアプランの見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の思いを大切に、柔軟な支援と日々変化する状況や重度化する状況を踏まえて臨機応変にかつ柔軟に職員がサービスを支援している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	半年に1度の消防訓練・夏祭り・文化祭などの行事でボランティア・民生委員・消防などと連携し、利用者さんが安全に暮せるように支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事情所の掛かりつけ医のほか、本人の利用前からのかかりつけ医の受診ができるよう通院したり、家族が通院に行ってくれたり 複数の医療機関と連携をとり支援している。	ホームの往診医と連携しながら、適切に専門医等に受診できるように配慮しています。看護師と職員が受診記録を共有し、家族に報告しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師とも、月2回の往診以外でも日常の健康管理・薬についてなど気軽に相談でき素早い対応をしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し、ADLの低下を最小限にする為早期退院に向けて密に情報交換している。病院からホームへ戻ってからの生活もスムーズにできるように病院関係者と相談しながら連携を図っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の思いを尊重し、終末に対する方針を十分話し合った上で、家族・医師・看護師と連携を取り指示を仰ぎ支援に取り組んでいる。重度化の場合の同意書を作成している	契約時や重度化した際に説明し、同意書を作成しています。医療との連携も行っており、希望を聞きながら、ホームとして、できることについて家族と話し合っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月1回の全体ミーティング時に急変・事故時のマニュアルの確認・誤嚥時の対応・心配蘇生法の訓練など実施している			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回ホーム全体で避難訓練を行い実際の災害に備えて、地域の方々と一緒に実施している。	火災が発生した場合に外壁に取り付けたベルが鳴り、近隣の方々の協力が得られるようにしています。避難訓練は年2回実施し、地域の方々からの参加も得ています。	回覧板で毎月の自主訓練の周知を行い、地域の方々の協力が得られるよう努力しています。今後も火災への備えを充実させるとともに、火災以外の災害についても、利用者の状況を勘案しながら、準備を進めることを期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の思いや尊厳を大切に言葉かけ・接する時の態度など本人の誇りやプライバシーを損なわないように対応の徹底を図っている			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で常に利用者さんが意思決定できるように声掛け思いを大切にし信頼関係の中から自分で決める喜びを支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の生活リズムを大切に、個々の状態や思っていることを大切にその人らしい生活が送れるように、出来るだけ個性のある対応をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容は馴染みの店へ行けるよう家族・職員が協力しあって支援している。身だしなみ・お化粧品も気をつけている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは、個人のできできないを把握し利用者の持っている力や気持ちを大切にしながら楽しく行っている。	食事の手伝いや、畑で収穫した野菜を食材に取り入れる等、生活の一部として参加して頂いています。また、毎月の外食も楽しみとなっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500kcalを目安にバランスの取れた食事や1日の水分摂取量をチェックし、その方の体調に合わせた支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後1人1人に合わせた口腔ケアを行い口腔内の変化を見逃さないようにしている。変化があれば往診してもらい早めの対応をそ手いる。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけることにより1人1人のパターンを把握し自立してトイレで排泄できるよう支援している。オムツを使用することなくパンツでの生活を支援している	ホームでは、おむつの使用を最小限に抑えるように職員一丸となって取り組んでいます。利用者のパターンやトイレのサインを見逃さず、さりげなく声かけしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の服用、排泄パターンの把握により便秘の予防に努めている。食事内容・水分量にも十分樹をつけ、個々に応じた予防に気をつけている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は夜間浴だが、その時の状況・希望み応じて柔軟な対応をしている。	利用者の希望に合わせて、週2回から、毎日でも入浴が可能となっています。温泉旅行に職員とともに出かけるなど、入浴が利用者の楽しみの一つになっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動し、夜間はぐっすり眠っていただけるよう、生活のパターンを決めリズムを作り安眠していただけるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院とも連携をとり薬については職員全員が理解しており日々支援と状況の変化を確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方その方の力を理解しその方が意欲的に力を発揮できるように常に観察し支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況			次のステップに向けて期待したい内容		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の系列ホームまで散歩に出かけたり、その方その方の懐かしい思い出の場所に出かけたり、1人1人家族から情報を頂き希望にそった外出を支援している	畑やスーパーへの買い物、カラオケなど、外気に当たって歩くことで、健康増進や気分転換にもなるため、外出支援には力を入れています。近所の桜を見たり、機会を捉えて外出を促しています。				
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	額が大きいお金はトラブルがあると困るので持っていませんが、小銭は所持しており、職員同行で買い物に言ったり、外出先で買い物したりしている。					
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙など本人がの希望に添って支援している。本人と一緒にポストまで投函するなど支援している。					
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内居室前のディスプレイにも1年を通して季節の物を飾ったり、外回りにも一緒に花を植えたりして、安心して暮せるよう配慮している	近所の方々がお茶を飲みを訪れたり、花を届けて頂いたり、また居間はゆったりとした配置で、来客者も、一緒に寛げるように配慮されています。食卓も夫婦や仲の良いもの同士で囲めるように、いくつか用意されています。				
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲よし同士がゆっくり話したり、たまに1人になりたい時は玄関前のイスで外の景色を眺めたりして個々の思いを大切にすることを工夫している。					
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が使い慣れた物・馴染みの物を持ってきてもらい、なるべく本人が落ち着いて暮せるようにしている。	使い慣れた家具や品物を使いやすく配置しています。暖房が天井からの遠赤外線を利用しているため、広々としたスペースとなっています。				
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	書くことが得意な方はメニュー書き茶碗洗いの得意な方は順番にお手伝いしてもらいなどその方その方の力が発揮する場を大切にしながら支援している。					